



# 波 濤

[http://www.geocities.jp/hatoh\\_net/](http://www.geocities.jp/hatoh_net/)

## 第 4 2 号

発 行 放送大学神奈川同窓会  
編集委員会  
責任者 木村 勝紀  
発行日 平成23年11月1日  
会員数 576名(平成23年11月1日)



### 「同窓会とICT」

神奈川同窓会  
会長 木村 勝紀

前号では「絆」のタイトルでご挨拶いたしました。3月11日の東日本大震災以来、マスコミでも「絆」の文字を多く見受けるようになりました。大地震、大津波、原発事故の三重苦で家族を喪い、家を失い、友を喪い、一家離散と友人たちとの別れの現実を目の当たりにして、「昨日は人の身、今日は我が身」と思い、今更ながら家族や親族や友人とのつながりが大切に思えてきたのではないのでしょうか。無意識の中に極めて大切な存在があったのです。それが「心の絆」というものです。卵の黄身と殻とを結ぶ紐もまた「絆」です。普段は必要を感じていないものが、実は陰では立派な役目を果たしています。

さて、神奈川同窓会の570名を超える会員と会員をつなぐ「絆」とは何でしょう。「誇りで結ぶ同窓会」「母校意識で結ぶ同窓会」「社会貢献で結ぶ同窓会」これはもうお馴染みの平成23年度活動方針の標語です。ここで「結んでいる」ものは、放送大学を卒業・修了した者同士という誇りであり、同じ放送大学を母校とする大学への共通の愛着心であり、「プラン・ジャパン」や「あしなが育英会」を通じた社会への奉仕意識です。これらは言わば精神の絆といえるでしょう。

神奈川同窓会のもう一つの「絆」は、情報を共有するためのコミュニケーションツールです。言わば精神の絆に対して情報の絆とも呼ぶものです。我が神奈川同窓会には、情報の絆について三種の神器を持っています。

一つは紙媒体による『波濤』という広報誌であり、残りの二つはネット環境です。世間一般では、ICT (information and communication technology) 情報通信関連技術といいますが、神奈川同窓会が持っている道具立ては、具体的にはインターネットのホームページと電子メールのe-mailです。

ホームページは、アクセスすればいつでも誰でも見れますし、e-mailは、登録すれば即座に返信ができます。神奈川同窓会のe-mailは「hatoh-net」といいます。ホームページのURLや「hatoh-net」への登録方法は、この『波濤』42号の記事の中にページを割いていますので、是非ご覧頂きたいと思います。

さて、この挨拶文のまとめに入りますが、神奈川同窓会の会員が時間と距離と空間を超えて、瞬時に情報を共有できるこのICTの使いこなしが、今後の神奈川同窓会の帰趨を決めるのではないかと、ひそかに想像している次第です。

「hatoh-net」への参加など、みなさまのご協力をお願いしたいと思います。

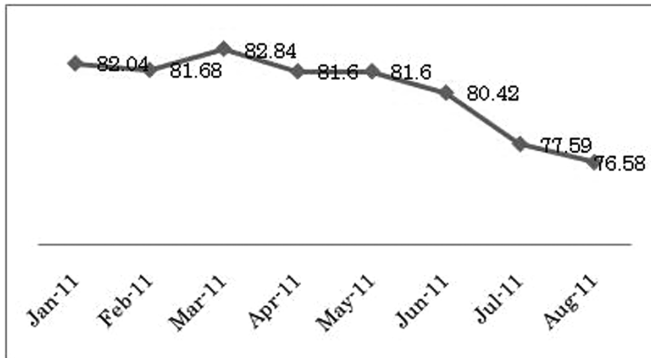
### 経営学徒の視点から見た震災後の円高



放送大学  
准教授 原田 順子

3月11日の震災は言葉では語りつくせない多くの悲劇をもたらしました。すべての被災者の方々に心からお見舞いを申し上げます。私は経営学の研究者で、経済学の研究者ではありません。しかし、若い頃に金融論を

かじったため、個人的に為替相場のメカニズムに興味があります。最近の円高について思うところを述べさせていただきます。あくまで素人の意見ですが、ご笑覧いただければ幸いです。下の図をご覧ください。この図は、2011年1月から8月までの対ドル為替レートを示しています(日本銀行データを筆者加工)。1月には1ドルが82円でしたが、8月には76円台にまで下落しました(円高が進行しました)。



現在、多くの国の通貨は完全な変動相場制度と完全な固定相場制度の中間に位置しています。為替相場は変動しますが、各国の通貨当局は自国の繁栄を考えて為替市場をコントロールしようとしています。そのために通貨の売買をするので、外貨準備(資金)が必要になります。たとえば先日、スイスがスイスフラン高による経済の悪化を立て直そうと、無制限の通貨介入を始めました。3月に震災が発生して今後の政府支出は増大することは誰の目にも明らかです。金利が上昇するかもしれません。普通に考えれば、日本の財政見通しは暗く、消費税の引き上げが国内消費を冷やすと予測されます。また、8月に米ムーディーズは日本国債の格付けをAa2からAa3へ1段階下げました。すなわち、日本経済のファンダメンタルズ(実力)は悪いと考えられます。

それにも関わらず、円高傾向が続いています。2008年9月のリーマンショック以後、ずっと1ドル100円割れです。さらに言うならば、1985年のプラザ合意で急激にドルが下落し、1990年代からリーマンショックまでは上下しながら横ばいでした。そして、日本経済の苦境は解決されないまま、現在まで円高基調です。国際経済の教科書には、アセットアプローチ(資産として外貨をみる考え方)によると、経済のファンダメンタルズは、為替レート決定の要因のひとつに過ぎないと書かれています。なるほど、日本経済の実力が下がっても円高になり得るというわけです。アセットアプローチの説明に

よると、為替相場の鍵は、国際為替市場の有力な取引主体が、為替相場がどちらの方向に動くかを予想しながら、売買を決めるということだそうです。これを踏まえてヒントをニュースに求めると、「ドルやユーロより円がましだから」「中国が、外貨のほとんどがドルという状態から脱却するために円を買っている」「主要通貨の何かが一方向に動く」と投資家は儲けやすいから、それを望むムードがあって、円が投機の対象になっている」など、色々な意見を知ることができます。注目すべきは、いずれの意見も、主要通貨の選択肢が「ドル、ユーロ、円」という前提になっていることです。

1999年にEU加盟のうち11カ国がユーロ導入を開始して、世界の主要通貨の種類が減りました。世界市場においてドルとユーロに比べて円の流通量は少ないです。これは危険なことです。大きな池に小石を投げ入れたとして、小さな波しか立ちません。しかし、洗面器の水に同じ大きさの小石を入れたらどうでしょうか。つまり流通量の少ない通貨のほうが波を立てやすいのです。多くの投機筋が円高という波をつくり、円高一方向の動きをつくったうえで売り抜けようとしているかもしれません。ドル、ユーロに比べて、円が少量の通貨になったことに、このたびのしつこい円高の遠因があるように思えます。

日本企業は1円、1銭の単位でコスト削減を図ってきました。しかし、為替相場の動きによって、一瞬にして涙ぐましい努力が吹っ飛んでしまいます。ユーロ誕生後、私は国際金融における潮目が変わったように感じています。とりとめの無い文章でございますが、日本企業の研究をしている者の雑感を紹介させていただきました。

## 「前へ！ 被災地へ！！」

西山 哲郎

2011年9月2日から6日まで宮城県牡鹿半島に復興支援ボランティアに出かけましたのでその様子をご紹介します。震災から半年近く経過しており、都市部では瓦礫の整理もかなり進んでは来ましたが、しかしながら、石巻においても壊れたままの駐在所や郵便局があり、とても復興半ばまでたどり着いていないのが現状です。

今回は、牡鹿半島の漁村支援が活動の中心でした。牡鹿半島は、宮城県の太平洋に突き出ている半島で、リアス式の海岸には沢山の小漁村が点在し、

震災前は牡蠣の養殖が盛んな風光明媚なところでした。行政地域としては、石巻市と女川町に分かれます。女川原子力発電所は、半島の中部にあります。

地震の影響で牡鹿半島全体が、1.2メートル沈下してしまいました。もともとリアス式海岸の入り江の希少な平地を利用して集落が形成されており、その集落の地盤そのものが沈下しているため、現在でも多くの漁村では満潮時には、海水が浸水しますし、堤防が復旧していないこともあり、高潮などには震災前以上の注意が必要になってきています。地球温暖化の数ミリメートルの海面上昇も影響なしとは言えないでしょう。

私達のお手伝いした漁村は、もともと漁師を中心に50戸の家があったそうですが、現在は姿が残っている家が10戸以下になっています。残りの家は、全て津波で跡形もありません。津波時に、沖の牡蠣の養殖いかだが打ちあがられたせいか、漁村は白い貝殻が山積しています。その貝殻の下に洗い流された家屋の土台があるようですが、貝殻で見えることはできません。浜に漁船が打ち上げられていなければ、もともと貝殻が積んであったのだらうとしか思わないかもしれません。しかしながら、そこは、正に50戸の漁村だったのです。

漁村で真っ先に再建されたのが、写真にありますように地蔵です。日本人は特定の宗教に帰依していなくても、信仰心が厚いことを象徴していると感じました。



漁村の支援でボランティアでも出来ることは、海岸の清掃です。しかしながら、これは、湘南海岸の清掃とはやや異なります。瓦礫などが海岸の砂の中に埋まっているために、砂上の瓦礫を集めるだけでなく、土の中から瓦礫を掘り出す必要があります。土の中から出てくるのは漁具が多いのですが、テレビ、畳、交通標識、仏像など、文明社会の縮図のように何でもでてきます。

土の中のものも敢えて清掃するのは、大潮や高潮でこのような瓦礫が再度海に流れ出し、漁業の妨げにならないようにするためです。

私は、自然と文明を対立的なものとしては捉えてはおりませんが、今回は、そのような二元的な考え方も理解できました。東日本大震災という自然の力により、東北地方に築かれた文明は大きな損害を受けたわけですが、文明から排出された瓦礫が、今度は、東北地方の美しい海岸線を壊しつつあります。自然の力は、大震災のように集中する場合がありますが、原則、物理的な拡散です。問題を拡散させて解決しようとしません。一方で、自然の中でも生物は、濃縮が可能であり、特に人間は自己の生体外でも主に化学を使って、濃縮活動ができます。自然の力によって文明を破壊された人間が、自然による瓦礫の拡散を防いで、自然と文明のバランスを取り戻すしかないでしょう。

生物は逞しく生きています。砂浜からカーペットを掘り出そうとしてもなかなか掘り出せないのどうしたのかとよく調べてみると、カーペットの上で発芽した草の根がカーペットを突き抜けてしっかりと大地をとらえ、なかなかカーペットを掘り出せないというようなことがありました。またコンクリートの護岸が崩壊し、漂着物が多いので、フナムシはこの夏大発生しているというのが地元漁師のお話でした。一方で、漁業活動が停滞しているために、港のカモメは餌がなく大変苦勞しているようです。震災は、人間だけでなく、被災地の生態系全体に大きな影響を与えています。

上記にも述べましたように、復興支援先は、女川原子力発電所から至近の距離にあります。しかしながら、ボランティアも地元も原発を心配する関係者は一切おりませんでした。(原発より、台風12号による高潮が懸念されましたが、台風12号は東北を直撃することはありませんでした)私は、原発推進派ではありませんが、福島第一原発の失敗例を科学的に検証すると同時に、より震源地に近い女川原発ではなぜ制御できたのかということ、中越地震における柏崎原発の事例と併せて、学問的に整理しておくべきではないかと思えます。

復興支援というと体力に不安があると懸念される方もおられるかもしれません。今回の私たちの支援活動は肉体労働型でしたが、避難所での話し相手など、頭脳労働型の活動も沢山あります。現地では、まだまだ手助けが必要です。支援活動も限られた器具、設備で様々な活動をこなさなくてはならず、人生経験がものをいいます。将来の計画を立てるのには

専門家の知見が重要ですが、現在、現場で求められているのは、人生経験であり幅広い学問的な知識です。多くの放送大学生、放送大学卒業生が支援活動に既に従事されていると思いますが、正に、人生経験が豊かで広く学んできたわれわれの出番でありますので、体力、年齢など気にせず、被災地を訪れ、復興に力を貸していただくようにお願いします。仙台はかなり復興の兆しが見えてきましたが、被害が激甚であったところでは、人手はまだ不足しています。石巻では、個人参加のボランティアの10%前後が外国人です。日本語ができなくても日本の漁村のために自分がやれることを、汗をかいてやっている外国人ボランティアを見ると、もっとも日本人が復興支援に直接関与すべきであると感じました。

## 震災視察報告

永井 藤樹

盛岡SCでの館外ゼミ「がんばろう東北」に参加し、被災地を視察しました。8月27、28日の両日です。初日午後、岩手県庁の職員の方から、ライフラインの断絶による日常生活の崩壊、災害対策に当たった実働部隊の自衛隊・警察・消防署の活動状況、自治体・海外からの人的・物的支援の概況と、岩手、宮城両県の県勢（人口、政治、経済、文化など）、復興に向けた二県の対照的な取り組みについて説明を受けました。

翌日、マイクロバスで東北自動車道を南下し、北上JCTで高速道を降りて北上川に沿ってさらに南下、397号、次いで気仙川に沿う340号線を下り、陸前高田市内に入りました。陸前高田市役所と陸前高田駅に挟まれた間が市の繁華街だったと説明がありましたが、全くのゴースタウンと化していました。津波の凄まじい破壊力を思い知らされる光景でした。駅はプラットホームと線路だけが残っており、市庁舎内はあらゆるがらくた物が押し込まれ散乱し、原型を留めぬ自動車までもが放置されていました。玄関前に花が供えられていたので、私たちは線香をあげ、般若心経を唱え慰霊しました。黙祷や読経はここだけでなく各所で、亡くなられた方々の霊を弔い合掌しました。

陸前高田市の復興は全く手つかずの状態、瓦礫が種類毎に集積されていて、主要道路が砂利で盛り上げられ、車両通行が可能になっているだけでした。水が引かない沼地には、かもめが人を畏れる気配もなく、

鋭い鳴き声を発しながら飛び交っていました。

次いで、45号線を通って、気仙沼市に入りました。陸前高田市（岩手県）と気仙沼市（宮城県）は、県境で隣接しています。バスの車窓から一筋の川が見え、右岸は高台に続き日常生活の様子が感得できましたが、左岸の土手から下がった一帯は、廃墟が続いていました。川一本を隔てて明暗がはっきりと表れていました。気仙沼市は市役所も健在で、漁獲高を誇る気仙沼港は被害が少なかったらしく、商店も開き、取引が活発に行われている様子でしたが、生臭さを伴う何とも言いようのない臭気が街中を漂い、ハンカチで鼻を押さえながら通らなければならない街道や、メタンガスが噴き出している沼地もみられ、陸前高田市と同じように瓦礫は積み上げられ、放置されたままの状態でした。

私はメディアが発信するデジタル画像にいささか違和感を持っています。画面があまりにも鮮明で非日常的な感じがします。そこには空気が写っていない、風のそよぎもなければ、何よりも匂いがしない。肌を刺す強い日差しもないし、割れた窓ガラスから飛び出している破れたカーテンの風にはためく音も聞こえない。視覚だけの世界は、肌で感じられる実感が伴いません。「現地に立つ」ことによって、視覚だけでは得られなかった様々な事実が得られます。同じような気持ちで被災地を訪れたのか、遠方から一人で来たと思われる人々のカメラを向ける姿が、あちらこちらで見られました。

会員の皆さんの中には、親・子・兄弟・親戚・友人・知人で災害に遭われた方がおられると思います。そういう方々を差し置いて、東北には何の係累もない私がこのような報告を発信することにいささかためらいと、おこがましさを感じます。

写真も沢山撮ってきましたが、既にみなさんがTVや新聞・写真集でご覧済みの映像と同じもののはずですし、プロの写真に比べ見劣りする物ばかりであり、ごく限られた箇所の写真ですが、数枚添付します。

復興は残念ながら、遅々として進んでいません。しかし、前に向かって着実に歩みをすすめています。「自然」に対する畏敬の念を抱きつつ、人々の絆を信じ力を合わせ前進している被災地の復興を見守って行きたいと思います。



ねじ曲がった鉄骨建物

## 『弘明寺サロン』への思い！

会長 木村 勝紀

サロンとは、17世紀～18世紀にフランス上流社会の教養ある婦人たちが優雅な会話を楽しんだという文化的社交的集まりのことだそうです。さて、私たちのサロンは、そんな高雅を求めているのではなく、集まりの会の名前に拝借したものです。2011年8月17日(水)第1回『弘明寺サロン』が開催されました。参加する人が一人も居ないのではないかと一抹の不安を感じながらお待ちしました。しかしながら、第1回目はそれでもいい、誠実に根気よく続けて行けばきっと日の目を見る時がくると腹を据えていました。結果は「案ずるより生むが易し」で、23名という予想外の方々にお運びいただきました。嬉しいことでした。

「誇りを絆に結ぶ同窓会」「母校意識で結ぶ同窓会」「社会貢献で結ぶ同窓会」とは平成23年度活動方針で述べたことですが、言葉だけではなく、「絆」を実感していただく機会が欲しい。そして会員のみなさまと直接お会いして話し合ってみたい。それが『弘明寺サロン』発想の原点でした。

人生の喜びは「行くところがある」「会う人がいる」「することがある」の三つが揃っていることではないでしょうか。その対象のひとつとして、それを必要としている人々のために同窓会もお役に立ってみたい。

『弘明寺サロン』は、出会う、触れ合う、語り合う場所です。一般に世の会合では初対面の時、緊張してぎこちなく硬い雰囲気が始まります。それが回を重ねるにしたがって次第に打ち解けて気楽になって行くのが通例です。

『弘明寺サロン』の第1回目は、ほとんど杞憂に終わりました。さすがに放送大学卒業という教養ある人生の達人の集まり、すぐに打ち解けて話は弾みました。続けて行く勇気をもらいました。

みなさまと一緒に同窓会の名物イベントに育てて行きたいと思います。そして、みなさまの人生に幾ばくかの彩りを加えることができれば望外の喜びです。どうぞよろしくお願い致します。尚、『弘明寺サロン』は、原則として毎月(1月・7月を除く)第3水曜日の午後2時から4時半まで神奈川学習センター2階の同窓会・学生団体室で行います。いつでも、どなたにもオープンマインドで開かれています。予約なし、途中からでもぶらりとお出かけ下さい。

## 「弘明寺サロン」印象記

倉田 寿代子

“予約不要・ぶらり来て下さい”のキャッチフレーズに動かされ出席致しました。放送大学卒業後二十年近く経つ私には、顔見知りの方は出席者数二十名中三名でしたが一言で楽しい交流の第一歩となりました。更に、このサロンに多くの方の出席を頂く為に印象記を書くようご依頼された次第です。

さて、定年後の過ごし方、卒業してからの過ごし方など色々模索されていますが………ことに、放大を卒業された方々には共通したそれぞれのポリシーを持っている様に感じました。それは私なりに考えてみますと、一般の若い学生とは違った強いモチベーションの働きにより学ぶことを選択したことかと思えます。社会経験を重ね熟年となって再び学ぶという情熱は卒業されてからも失われていない様です。卒業と共に終わりでは残念という思いに動かされ再び集うチャンスを作りたいと役員の方々のお考えからこのサロンの開設となったと思いました。

恰も、東日本大震災より五ヶ月経ち、一時の恐怖は落ち着き、今は人々は何が一番大事・大切かを考え始めた時期となりました。その一つに“絆”“繋がり”というキーワードが一番生きる支えになると気付かれた様です。震災の人々のみならず一般の人々も埋もれていたこの言葉を口にするようになり喜ばしいことと感じています。このサロンもこれに便乗し一層“絆、繋がり”を深めたサロンを作り、方向性は集まった人達の考え次第で自由に楽しいものとなると思えます。

初回に出席しての印象に残った話題を申しますと、卒業して物の見方が客観的になった事が良かったと或る女性の方が話されておりました。兎角女性は男性的夢社会とは異なり現実的(感情的)です。現実生きねばならない社会的役柄を背負っている所以かもしれませんが。しかし勉強その他の積み重ねた社会的体験等により客観的(理性的)に物事を観察することが出来るようになったと喜んで話されましたが、私も同感でした。更に学んだことは実践する・・・と強調しておられとても良いお話でした。

又サロン解散後何人かで卒業後初めて新しくなった図書館、視聴学習室を見学させて頂き立派さに驚きました。今では受付に女性二人の図書館司書の方がにこやかに座っておられ活動的な雰囲気でした。卒業生も「利用証」の発行により自由に利用出来ることは喜ばしいことです。最後に若い同窓会員も多数出席され、コミュニケーションの幅を広げよりユニークなコミュニティとしてのサロンを作り続けて行く事を希望して、私の拙い印象記とさせていただきます。



第1回「弘明寺サロン」2011. 8. 17

## 「因と縁」を結ぶ楽しさにドブプリ

植地 勢作

私は平成19年3月に修士の学位を取得、卒業謝恩パーティーの場で同窓会に入会しました。入会はしたものの、時々、「波濤ネット」の記事を目にする程度で、名ばかりの会員でした。学習支援制度(現Kサポート)が発足した時、学習相談員として時々センターに顔を出すようになって、多くの老学生(失礼!)が楽しそうに仲間と談笑する姿がうらやましく、大学に再入学し、現在3年目です。土・日が休めず、あまり受講するチャンスなかった面接授業も、退職を機に自由に選択できるようになり、この頃ではお隣の学生とちょっとした会話を楽しめるようになってきました。

そんな矢先、「波濤ネット」で「弘明寺サロン開設」のご案内を拝見、その中で木村同窓会長が「因と縁、因縁を結ぶ機会を同窓会の中につくりたい」と述べておられ、何はともあれ「参加しよう」と、恐る恐る参加したというわけです。

会合では、個性あふれる自己紹介の後、偶々隣に座られた中山致さんとお話する機会を得ました。中山さんは、大学で「人間の探求」、「社会と産業」を終了され、次は「自然と環境」コースに挑戦されるというご立派な方です。そればかりでなく、私と同じ大学の同じ工学部の先輩であるということまでわかり、これぞ「サロン」開設の趣旨にぴったりと奇遇を喜びました。

次回からは、どなたかに短く「卓話」をしていただき、それをたたき台に談論の花を咲かせようということになり、また、時期を見てズーラシア見学や飛鳥山3つの博物館見学をしようということになりました。

会が終わって、希望者(男性のみ10名)で二次会に繰り出しました。控えめな男性軍もここでは意気軒昂、改めて自分の経歴や生まれ故郷の話など次々と話が弾み、「これぞまさしくサロン」という雰囲気に浸ってにこやかに散会しました。

放送大学は多士済々、それぞれ多彩な経歴を持っておられます。そういう人たちと交流することは、私のように50年近く紙一筋で生きてきた片端な人間にとってはきわめて貴重な経験です。同窓会の会員でありながら、これまで宝の持ち腐れとなっておられる方々にはお勧めの会です。心おきなく扉を叩くとよいと思います。世界が広がります。

## 「義経千本桜」 渡海屋の場・大物浦の場

2011.07.03 国立劇場

好見 さち代

歌舞伎と聞くと古い伝統物で、テンポものろいと私自身思っておりました。しかし現代的に言えばCDを駆使してスーパーヒーロを映像にして発信するのがTVのアニメです。

歌舞伎は舞台上でスーパーヒーロが幽霊・妖怪・狐に化けたり、突然消えたりヒーロは花道(舞台から客席の中を通り登場人物が出たりひっこんだりする場所)を通り途中、止まり観客にサービスをし、観客と一体化する。



TVは一方通行のアニメ、歌舞伎は観客と一体化するアニメです。女方の役者さんはより女らしい立居ふるまいをするのにビックリ。着物の色の配色も役者さんそれぞれ美しく女性の美しさがでていました。平家一族が非業の形で滅び、義経が弁慶に甲いのホラ貝を吹かせる場面は今回地震と津波で亡くなった人々への鎮魂のホラ貝に思えホロとしました。ホロと最後観客がなる場面は何時の時代も同じだし、言葉が解らない外国の人も自国の悲しみに置き換えて涙する。これこそ歌舞伎が代々受け継ぎ洗練された芸の伝統。これからも伝統を継承し時代にあったものへと変化し、未来へ繋ぐ日本の伝統芸能です。最後に役員の皆様切符の手配お金の集金とお世話おかけいたしました。有り難うございました。

## 国立劇場で歌舞伎鑑賞

柳澤 明男

2011年7月3日、東京・三宅坂の国立劇場で神奈川同窓会の歌舞伎鑑賞会に参加させていただいて公演中の歌舞伎を見ました。参加者は20名、当日は天候もよく楽しい一日を過ごすことができました。国立劇場では創立の翌年から毎年6月と7月に、学生など歌舞伎にあまりなじみのない人を対象に「歌舞伎鑑賞教室」を開催しています。私たちが見たのもこの催しです。期間中、「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」、「親子で楽しむ歌舞伎教室」もあります。隣には歌舞伎の小道具や衣装、映像などを展示している入場無料の伝統芸能情報館があります。1階は情報展示室、2階は図書室、3階はレクチャー室です。その隣には寄席の国立演芸場もあります。国立劇場の正面

は道路を挟んで皇居のお堀、隣は最高裁判所、その反対側に少し離れて半蔵門があります。

歌舞伎を見たのは今回で3回目になります。3回とも国立劇場で見ました。1回目は「平成19年度第1学期国文学入門」の面接授業で「新版歌祭文—野崎村」を見ました。その時のプリント教材2には1日目歌舞伎各ジャンルの講義と脚本の読み、2日目歌舞伎鑑賞となっています。脚本の読みは物語の展開を理解する上で大切だと思います。内容はお染久松の恋というよりもお民の純情を描いています。2回目は神奈川放友会の行事に参加させていただいて「雷神不動北山桜—鳴神」を見ました。鳴神上人が雷神を滝壺に封じたため雨が降らず干天続き。帝によって遣わされた女性が注連縄を切って雷神を解き放ち、雨が降るとい物語です。華やかな舞台、色彩の豊かさ、俳優の所作、照明音響の素晴らしさに感動しました。

歌舞伎鑑賞は今回で3回目になります。演目は「義経千本桜—渡海屋の場、大物浦の場」一幕二場です。国立劇場の「歌舞伎鑑賞教室」ではいつも上演に先立って若手俳優による解説が行われます。今回は尾上松也さんが見どころについてユーモアを交えて解説してくれました。物語は源平合戦の後日談ともいえるものです。壇ノ浦で戦死を伝えられた平知盛は実は生きていて、いつか義経を討って平家の再興を企てていました。あるとき義経に出会って時節到来と戦を挑みますが再び敗れ、大岩に登って碇綱を体に巻き付け、海に投じた碇に引き込まれて果てるというものです。知盛最期の場面は必死の形相と無念さがよく表れて圧巻でした。また安徳帝役で幼子が出演しています。平成18年生まれ、5歳の大河ちゃんです。松緑さんのご長男とか?長いセリフもこなして実に愛らしい姿でした。歌舞伎を見た後はいつも満足感があります。



国立劇場前にて

グループで見ると楽しさが増します。物語の梗概を知って舞台を見ると更に楽しさが増すと思います。終演後、横浜での打ち上げに参加させていただきました。芝居帰りの飲食の席は明るく、楽しく、にぎやかなものになって神奈川同窓会の歌舞伎鑑賞会は終了しました。お世話くださった幹事の方々に心からお礼申し上げます。

## 第25回フェスタ・ヨコハマ「記念講演会」

木下 義則

平成23年9月4日の10時から神奈川学習センター第8・9講義室において、神奈川サークル協議会主催の「フェスタ・ヨコハマ」の記念講演会が開催されました。今年度の「フェスタ・ヨコハマ」は第25回の記念開催であり、お招きした講師は今年5月放送大学学長に就任されたばかりの岡部洋一先生です。

講演会場には二百人を超える同窓生・学生等が集まり溢れんばかりの状態でした。演題は「情報と教育」というテーマで、コンピュータならびにインターネットに代表されるICT(Information and Communication Technology)の歴史を振り返り、今日多くの人々に利用されている情報通信技術がどのように形成されてきたのかその発展の様子を詳細に説明していただくとともに、これらの技術がICT教育(e-learning)にどのように利用されているか、私たちが新たなサービスとして利用し始めた、「インターネット出願・科目登録」「Web通信指導」や「インターネットにおける授業配信」等々の放送大学における具体例を織り交ぜながら講演され、教育の現場におけるICTの初心者教育の推進、インターネットによる双方向教育の場の確保等の重要性を説かれていらっしゃいました。

岡部学長は放送授業で「コンピュータのしくみ」という科目を担当されておられ、情報通信技術に関する専門家です。今後の放送大学におけるICT教育の推進役を学長自らが担当されるということは大変心強いことだと感じるとともに、我々に有益で貴重な話題を提供していただいた、岡部学長に感謝し筆をおくこととしたいと思います。

## ビンゴ大会(9月4日)

志賀 健三

フェスタ・ヨコハマへの参加者が年々多くなりプログラムの最後を飾るビンゴ大会も熱気を帯びる。俳句川柳部門の表彰が終わってテンポ良くビンゴのルール説明を始めた。抹茶コーナーより3名の応援が駆けつけ会場の空気も一瞬和んだ。体制が整ったので14時30分少し前にスタート。

今回の景品は前回よりやや少ない60本、特別賞を最後に設けたことや名司会振りに大勢の人達が最後まで残り、盛り上がった雰囲気の中で終了しました。後日の反省会で指摘された点は次回へ活かして頂けたらと思います。ビンゴ担当のほとんどの方々が他の役割との掛け持ちで忙しく、本当にご苦労様。



第8講義室で講演する岡部学長



交流会で学歌のタクトを振る岡部学長



## お抹茶コーナー

大木 陸夫

## 叢書販売

高橋 照夫

フェスタ・ヨコハマの定番の催しものになった『お抹茶コーナー』は、抽選での50名と、学習センターや同窓会のご来賓の皆さまにお抹茶を楽しんでいただきました。会場は第2講義室、準備の段階ではいかに茶道の心を表現できるか、教室が茶室に近づけられるかを工夫しました。1回のお客様は14人、フェスタ全体の進行表に合わせてサービスして、終了させなければなりません。1回に要する時間は20分でないと間に合わないこととなります。お客さんを案内して座っていただき、亭主が2回お茶を点てて正客と次客に、その間に他の12人には陰点で、お抹茶を喫していただくこととなります。亭主家田さんと水屋の8人が手順よく進めることが大切になります。

12:10 第1回目は、同窓会の来客者です。連合会長はじめとして、千葉、埼玉、足立、文京、静岡から参加してくださいました。着席いただいた後、担当者一同が並び、浅井さんの開席の挨拶でスタートしました。

12:45 2回目から5回目までは、抽選で選ばれた参加者の皆さんです。

そして14:05 6回目、学長を始め、センターの来賓の方々です。今回は25回記念ということで歴代の所長と事務長が参加してくださいました。また、本部職員、横浜国大総務部長が参加してくださいました。多くの参加者の皆さんから「大変良かった」という感想文が寄せられましたことを加えて報告とします。



岡部新学長と亭主家田さんと水屋の8人

放送大学では過去の講義の中からピックアップし、叢書として発刊する事業をスタートさせ、現在、16アイテムが発売されています。今年、同窓会連合会ではこの事業推進の一助として、各都道府県の同窓会単位で叢書販売に取り組むことを決定しました。神奈川同窓会は、今年度より叢書販売担当グループを設け、販売活動をスタートさせております。すでに、5月の同窓会総会、9月のフェスタヨコハマの2回(3日間)の実施で70冊の販売と好調な滑り出しです。今後、同窓会の主催する行事、構成メンバーである神奈川サークル協議会の行事、学習センターで行われる入学者の集いや卒業式等での販売を計画しております。

神奈川同窓会は永年社会貢献活動(プラン・ジャパンのフォスター・プラン)への取り組みを事業の柱にしておりますが、今年度から国内向けの社会貢献活動(あしなが育英資金への献金活動の予定)をスタートさせました。叢書販売の利益はこの社会貢献活動に充当いたします。叢書販売に取り組む趣旨をご理解いただき、今後の販売活動へのご協力をお願いいたします。

| No. | 放送大学叢書              | 著者     |
|-----|---------------------|--------|
| 1   | 茶の湯といけばなの歴史         | 熊倉功夫   |
| 2   | 動物の生存戦略             | 長谷川眞理子 |
| 3   | 音楽家はいかに心を描いたか       | 笠原潔    |
| 4   | 徒然草をどう読むか           | 島内裕子   |
| 5   | 比較技術でみる産業列国事情       | 森谷正規   |
| 6   | 自己を見つめる             | 渡邊二郎   |
| 7   | 私たちはメディアとどう向き合ってきたか | 柏倉康夫   |
| 8   | 人間らしく生きる            | 杉村宏    |
| 9   | 建築を愛する人の十二章         | 香山壽夫   |
| 10  | 〈中国思想〉再発見           | 溝口雄三   |
| 11  | 教育の方法               | 佐藤学    |
| 12  | 〈科学の発想〉をたずねて        | 橋本毅彦   |
| 13  | 初歩から学ぶ金融の仕組み        | 岩田規久男  |
| 14  | 老いの心の十二章            | 竹中星郎   |
| 15  | 西洋近代絵画の見方・学び方       | 木村三郎   |
| 16  | 学校と社会の現代史           | 竹内洋    |

出版：左右社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-4-406

電話番号：03-3486-6583

ホームページ：http://www.sayusha.com

## ホームページ管理担当からお願い

寺村 紀美夫

- ご感想をhato-netに投稿を! HP更新(会員からの投稿)のお知らせがありましたら、HPを是非ご覧下さりそのご感想をhato-netに投稿願います。(投稿を頂いた皆様からのご要望です)
- HPに関するご意見・ご感想等をhato-netに投稿を!HPに関するご意見・ご感想その他を是非hato-netに投稿して下さいようお願い致します。HPコンテンツ協力をお願い!!HPは内容更新が命とされています。即ちHPの各ページ内容は最新情報、最新コンテンツが必要なのです。会員皆様のコンテンツを募っています。会員皆様からのHPに載せるためのエッセイ、小論文、詩、和歌、俳句、川柳、写真、放送大学生時代の思い出や感想等何でもよろしいので投稿をお待ちしています。

HPアドレスはこちらです↓

[http://www.geocities.jp/hato\\_net/](http://www.geocities.jp/hato_net/)  
(hとnの間はアンダーバーです)

## 波濤ネットの会 会員募集中

岡本 興和

波濤ネットの会(hato-net@yahoogroups.jp)は神奈川同窓会会員専用の通信連絡網です。この11月で開局5年目を迎え、103名が登録しております。

登録無料・会費無料・入会随時  
同窓会の行事・イベントの連絡  
同窓会ホームページとの連携  
投稿大歓迎  
「ROMる」会員歓迎  
Read Only Member

入会のご希望者はお名前、アドレス、ウイルス対策ソフト名を明記してシステム管理者のアドレスに送信して頂ければ登録致します。宜しくお願い致します。

登録担当 岡本 興和  
okow1439@hotmail.com

## 同窓会連合会の動向

～同窓会連合会の編集委員会～

神奈川同窓会会長 木村 勝紀

平成23年度の連合会は小野鐵雄会長(千葉同窓会会長)のもと順調に活動を遂行しています。同窓会連合会には①編集委員会、②卒業・修了祝賀実行委員会、③同窓会設立支援特別委員会、④財政基盤強化特別委員会の4つの実行委員会があり、それぞれ委員長と委員を編成して活動をしています。

神奈川同窓会関連では、神奈川同窓会会長(木村勝紀)が編集委員会委員長を務め、副委員長に栃木同窓会会長(須藤國夫氏)、委員に山梨同窓会会長(網倉紀年雄氏)、茨城同窓会会長(矢野正義氏)、同窓会連合会・事務局長(木村寛子氏)の構成で編成しています。

また、ICT(information and communication technology)情報通信関連技術のテクニカルアドバイザーとして、茨城同窓会の葛貫壮四郎氏、神奈川同窓会の岡本興和氏、神奈川同窓会の寺村紀美夫氏の三氏にも加わっていただき、万全の態勢で臨んでいます。



編集委員会の役目は、同窓会連合会の広報誌『公孫樹』の編集・発行と同窓会連合会が保持するインターネットのホームページ及び電子メールによる複数のe-mailシステムの維持・管理・運用です。全国の同窓会会長を結ぶ全国同窓会会長ネット、連合会役員会の役員を結ぶ連合会役員ネット、そして編集委員会委員を結ぶ編集委員会ネットです。

全国の各同窓会内での会員同士のコミュニケーションのあり方と同窓会連合会での全国各同窓会同士のコミュニケーションのあり方は全くの相似形です。

ICTの存在は、遠隔同士を瞬時に繋ぐ仕組みとして、各同窓会や同窓会連合会の運営には最も活用すべき道具立てとして位置付けています。そんな意気込みで神奈川同窓会は同窓会連合会の中で機能すべく役割を果たそうと考えています。

## 平成23年9月卒業証書・学位記授与式

岡本 興和

平成23年9月卒業証書・学位記授与式は10月2日(日)午後3時から第8講義室で挙行された。大学側の説明では101名の卒業生、式典の参加者は44名と例年と同じ出席率のパターン(概ね50%弱)だ。

専攻別に着席場所が表示され、宮崎事務長の司会進行で、一人ずつ渡邊センター長から卒業証書が手渡された。同窓会の皆様も2回目、3回目、何回もこの晴れの日を迎える人も多く、「我が人生最良の日」「我が生涯最良の年」であったことと思います。改めてお祝い申し上げます。

学位記授与式が終り、正面玄関前で記念撮影が行われた。専攻別に渡邊センター長を挟んで卒業証書を見開きにして撮影された。カメラマンが多く、どのカメラに顔を向ければ迷うところだ。記念撮影が終り神奈川同窓会主催の卒業祝賀会が第7講義室で開かれた。木村神奈川同窓会会長の挨拶、神奈川学習センター宮崎事務長の乾杯音頭、先生方のお祝い言葉を受け、宴(うたげ)は進んでいった。

今回の祝賀会は会費不要の新しいスタイルで祝賀会を開いた。ささやかであるが、心のこもった宴を試みたのです。司会者のウイットに富んだ司会で会場は和やかな雰囲気醸し出され、挨拶する人もつい本音を漏らす楽しい話が披露された。



卒業証書・学位記授与式

## フォスター・プラン活動について

家田 禮

「第25回記念フェスタ・ヨコハマ」(9月4日)にフォスター・プラン(社会貢献活動)のPR活動としまして、30分の時間をいただき「ネパールの女の子を守るの誰?」を上映いたしました。

5人のチャイルドに手紙を送りました。東日本の大震災にたいしても触れ、私たちは元気ががんばっていることを手紙に書き「同窓会のメンバー」の写真と同封いたしました。

その後チャイルドからは便りはありませんが、そのうち届くのを楽しみにしております。



Madou 君と家族の最新情報  
[MOUSSA OMBOTIME  
プラン職員より]

●チャイルド

氏名：Madou Donico  
Cisse

年齢：6歳

国名：MALI (西アフリカ)

●スポンサー

氏名：放送大学神奈川同窓会(日本)

●学校 Madou はまだ小さいので、学校には通っていません。

●健康 家族の話によれば、Madou は健康に過ごしています。最寄の保健施設は、30分ほど離れたところにあります。

●プロジェクト

Madou の住む地域では、子どもと妊婦への予防接種・家族への家畜の提供・女性の自助グループに対する能力開発と支援。



正面玄関前で記念撮影

## 企画だより

### 平成23年度秋の企画行事のご案内

今年度後期の行事は多摩丘陵の一角に位置する生田緑地(川崎市多摩区)に点在する川崎市立日本民家園と川崎市岡本太郎美術館を見学します。メタセコイヤの林やもみじの葉の色づくころ、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：平成23年11月26日(土)

集合場所：小田急線

向ヶ丘遊園駅南口改札

10時 時間厳守 雨天決行

締切日：平成23年11月20日(日)

渡邊久江(幹事)

Tell: 045-451-0408

090-9201-4460(携帯)

E-mail: nabex@bh.wakwak.com



●12月21日(水) 神奈川同窓会忘年会  
(弘明寺サロン終了後)

●平成24年3月4日(日) 映画鑑賞会  
(サークル協議会の講演会と共催)

## 事務局だより

### 会員動向

先年度は新会員33名の方をお迎えしましたが、本年度は10月2日現在で53名の方に入会して頂きました。心より歓迎申し上げます。

新会員は下記の方々です。(53名 敬称略)

|       |       |      |       |
|-------|-------|------|-------|
| 石川弘   | 萱嶋美子  | 清水利光 | 長橋輝明  |
| 石崎朱美  | 神田兼彦  | 上代益栄 | 本多和美  |
| 石井喜久子 | 片倉秋子  | 陶山博太 | 堀誠    |
| 池永恵子  | 河西敏   | 水津真  | 増野清泉  |
| 内田俱子  | 橘川昌弘  | 菅原次男 | 水沼秀男  |
| 内山遵   | 古山美鈴  | 関汐子  | 宮川京   |
| 遠藤典子  | 小泉民介  | 田丸重男 | 永江紀恵  |
| 小野俊明  | 小西康裕  | 高橋千佳 | 三戸富美子 |
| 大場美津子 | 小玉良子  | 谷秀子  | 三輪雅克  |
| 尾前昭代  | 小宮健司  | 津崎直  | 宮川安子  |
| 小野善昭  | 小林良子  | 中村明子 | 村上知子  |
| 大野道衛  | 沢柳和夫  | 中村伸子 | 山上佳代子 |
| 金澤禎子  | 篠原佐千江 | 中野昭  | 山本香織  |
|       |       |      | 山内末雄  |

### 年会費納入のお願い

年会費納入状況は、10月2日現在で口数：365、納入率：59.5%であります。ご承知の通り年会費は充実した活動するための資金です。「波濤」「弘明寺サロン」「フェスタ」等会員相互の絆を深めるべく着実に活動を推進しております。神奈川同窓会の発展のため年会費納入については一層のご協力をお願い致します。なお、払込取扱票は青伝票をお使い下さい。念のため、口座記号番号、年会費金額等は下記の通りです。

口座名 神奈川同窓会  
口座記号番号 00250-16183  
年会費 1,000円

郵便番号(〒)、住所、氏名、電話番号を記載して下さい。

お問い合わせ:吉原司郎  
電話番号:045-712-0903